

ソフトバンクBB殿の寄書(SMS-30-SBB-04とSMS-30-SBB-05)に対する反論

平成17年12月22日
長野県協同電算

ソフトバンクBB殿は、NTT東日本殿が前回提出した寄書(SMS-29-NTTE-02)の中で記載した以下の計算式を、

$$FEXT3 = Sd - FPSL - (\quad \times m)$$

「既に合意されている方法」の「計算モデル」として、寄書(SMS-30-SBB-04)の各案の中にも含めている。しかし弊社は、上記式を審議のためのたたき台として使用することには合意したが、そのまま使用することについては合意していない。事実、課題表には以下のように記載されている。

D.2.3.1	オープン	計算モデルはどうするか？	
D.2.3.1.1	合意	<u>SMS-29-NTT-02の資料の計算モデルをたたき台とする(ただし、帯域外雑音を考えないモデルとする)</u>	

弊社は、帯域外雑音を考慮して計算モデルをつくるのは困難であると考え。したがって帯域外雑音を別の課題として審議することには合意した。しかしその場合においても、上記式をそのまま使用することについては合意していない。あくまでも、計算モデルを審議するためのたたき台として合意したにすぎない。

ちなみに弊社は、第27回会合で提出した寄書(SMS-27-NKD-01R01)の中で以下のモデルを提示した。

$$\begin{aligned} & (\text{線路長}M\text{での遠端漏話}) / (\text{線路長}(L - M)\text{での減衰}) \\ & + (\text{近端漏話}) * (\text{線路長}M\text{での減衰}) \\ & - (\text{近端漏話}) * (\text{線路長}L\text{での減衰}) \end{aligned}$$

「上記式」をこのモデルに適用すれば、以下ようになる(ちなみにNEXT3の算出はNTT東日本殿の寄書(SMS-29-NTTE-02)に従う。また「線路長(L - M)での減衰」と「線路長Mでの減衰」、および「線路長Lでの減衰」の算出はJJ100.01第三版のA.3.に従う)。

$$\begin{aligned} & (FEXT3) / (\text{線路長}(L - M)\text{での減衰}) \\ & + (NEXT3) * (\text{線路長}M\text{での減衰}) \\ & - (NEXT3) * (\text{線路長}M\text{での減衰}) \end{aligned}$$

同様の理由により、ソフトバンクBB殿が提出した寄書(SMS-30-SBB-05)の中で述べているJJ100.01第三版の修正案についても反対する。

以上。